

【第 2 回 IPD 懇談会議事録】

1. 日 時：令和 5 年 3 月 17 日（金）15 時 00 分～17 時 00 分
2. 場 所：機械振興会館 5S-1 会議室（東京都港区）
3. 議 題：①第 1 回 IPD 懇談会議事録の確認について
 - ②IPD 懇談会の設置について（文部科学省）
 - ③IPD ヒアリング結果の報告について
 - ④IPD システムの構築について
 - ⑤IPD 懇談会ロードマップについて
 - ⑥全体意見交換
 - ⑦その他
4. 出席者：[委員] 岸本委員、佐藤委員、橋爪委員（WEB）、江黒委員、塩原委員、池田委員、
松岡委員、高木委員、三田委員、新川委員（名簿順）
[日本技術士会]寺井会長 寺沢専務理事、技術士制度検討委員会中川委員長

5. 議事録：

- ①日本技術士会 技術士制度検討委員会 中川委員長から出欠の確認、配布資料の確認があった。
- ②第 1 回 IPD 懇談会議事録（案）が異議無く承認された。
- ③文部科学省から、文部科学省科学技術・学術審議会技術士分科会において決定された IPD 懇談会の設置について説明があった。
- ④事務局（中川委員長）から、資料 3 に基づき IPD ヒアリングの実施状況について報告があり、質疑応答が行われた。
 - ・建設分野ではもともと技術士制度に関心が高いため、建設分野以外のヒアリング先企業の回答に注目すべきと考える。質問にあたり先方にどのような情報を伝えたいかヒアリングを行っているのか。
⇒IPD に関する資料と、質問事項を事前にお渡ししたうえでヒアリングを行っている。
 - ・ヒアリング実施側の感想をお聞きしたい。
⇒各社様々な評価制度があるなかで、今後の IPD の必要性は感じてもらったのではないかと。業種、業界によりかなり温度差を感じた。それらの違いを前提に、共通化できる部分を基本的な枠組みとして作っていくことが大きな課題と感じた。
IEA の技術者像と、実際に働いている方々の技術者像にズレがあり、そこを連動させつつ IPD を設計する必要があると感じた。
 - ・IPD の普及による人材の流動化に関してお聞きする際には、IPD が何らかの能力担保がなされた人材であれば採りやすいというメリットを強調するような、前向きな形に修正してお聞きした方が良い。
 - ・今後様々な事柄を AI が処理する仕事の世界観に対応するために IPD が必要と考える。
 - ・回答は会社全体のものか、ヒアリング対象部門のものか。
⇒A 社は会社全体、B 社は土木部門、C 社は会社全体と、ヒアリング先によって異なるが、なるべく会社全体の回答を引き出す形で進めている。

- ・本ヒアリング結果をどのような形で文科省での開催となる IPD 懇談会に引き継ぐか、整理が必要と考える。
- ⑤日本技術士会 寺井会長から、資料 4 に基づき IPD システム構築について説明があった。
- ⑥事務局（中川委員長）から、資料 5 に基づき IPD 懇談会の進め方（ロードマップ）について説明があった。
- ⑦事務局（寺沢専務理事）から、IPD 懇談会について今後必要となる検討アクションについて説明があった。
- ⑧全体で意見交換が行われた。
 - ・制約条件、必須条件を整理して課題をまとめる論点整理が必要と考える。スケジュールは文科省制度検討特別委員会のスケジュールと合わせる必要はあるのか。
⇒始めてみないと分からないが、検討がスピードアップすれば当然スケジュールは早まるものと思われ、必ずしも制度検討特別委員会のスケジュールに制約されるものではない。
 - ・ロードマップのステージ 5「具体的な制度設計」の先も、どういう形で実現していくのかの絵姿が必要ではないか。
⇒ロードマップのステージ 3「プロトタイプ」で提示できればと考えている。
 - ・プロトタイプ設計後に、実際に小規模に IPD システムを回してみることは可能か。
⇒イメージを共通化するためにいくつか代表的なシステムを試行してみることは必要。
 - ・資格試験的なものが多数あり、現状ではどの資格を取得すれば将来的にどのような立場に繋がっていくのかが見えにくい状況である。IPD がその様な資格取得後の未来像を整理する、共通的な尺度となることを期待する。
 - ・ロードマップのステージ 5「周知」とは、中小企業、ベンチャー企業にも行き渡るものをイメージしているか。
⇒コミュニティへの周知が中心だが、ジョブのマーケットを支えているような業界にも周知することが有効だと考える。
 - ・周知はステージ 5 だけではなく、中間段階でも必要ではないか。アソシエーションの関係学協会などに、早い時期から徐々に周知することをロードマップに記載すると良い。
⇒各学協会の事務局連絡会、シンポジウムの機会などを利用して周知を進めることを考えたい。
 - ・いずれ関係省庁にも参画してもらいたいと考えているが、アピールするためにはステージ 3 のプロトタイプのような具体例と、それを回してみた実績が必要。
- ⑨寺井会長から閉会の挨拶があった。
- ⑩事務局（中川委員長）から、ロードマップをブラッシュアップしたうえでプロトタイプの素案も作成し、次回懇談会の資料としたい旨の報告があった。